

「大会応援伝道を通して一教会とこの世に横たわる溝の深さ」

東京中央伝道所委員 長谷部 一郎

1 教会の現状と応援伝道の試み

2015年以来皆さまの祈りと献金に支えられて始まった耐震・改築工事が滞る中で、教会の創立以来支柱であられた兄弟姉妹を相次いで失い、見える教会を名実共に強固・堅固にしたいという思いが教会員の中に強まってまいりました。また、当教会は周辺に他教会を多く抱え、教会員のほとんどが遠方からやってくる者で、新来者や近隣住民の教会員が少ないという特徴がありました。そこを何とか打破して行きたいという思いも大会応援伝道の実施に込められた教会員の思いであり、それに従ってお招きする先生も決めました。

2 その準備

新聞折込チラシ1万枚を教会周辺に配布いたしました。また、全国の教会と牧師宛に、大会応援伝道のお知らせとしA4の用紙に教会の歩みと今後の教会形成の取り組み及び詳しい地図を掲載したものを送付いたしました。また、応援伝道の葉書も陪餐会員・未陪餐会員・求道者・他教会員40名ほどに送付いたしました。

3 当日の礼拝と懇談会について

森下真裕美先生の説教はルカ15章1～10節「たった一人でも」でした。聖書時代史を踏まえた明解な注釈、譬え話の事物即ち「失われた羊」と「羊飼」、「残された羊」をいかに我々の実存の関わりの中に当てはめ理解させていくかという点で優れて説得力のあるものでした。数の多寡で事を決めようとする合理主義を超越している神の姿が語られました。懇談会は15名が残り、当教

会に多い北海道出身者が森下先生の地元での教会員、近隣の人々との親しい関わりが語られると話が盛り上がりました。独立教会の経緯も伺うことが出来ました。

4 評価とこれからの展望

新来者は4名（男1名女3名）ありましたが、求道者は皆無でした。更にこの応援伝道の結果がその後の礼拝出席者の増加に繋がっている兆候も見られません。かくも教会とこの世の間には超えられない大きな溝があることを認識させられますが、これをこの世に倣って嘆き、他もそうであるという諦めで捉えてはなりません。努めて信仰的な現実として捉えることが必要です。パウロは彼の伝道がいかに労苦の連続であったかを具体的に述べておりますが（2コリ11:23～27）、それに比較して我々の経験は何と小さいものでありましょうか。更にパウロはロマ書5:3で「苦難をも誇りとします。わたしたちは知っているのです。苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むことを。」と述べています。今、我々は秋の大会応援伝道に取り組んでおります。



伝道最前線での小さな取り組み

釧路教会牧師 千葉 保

1962年に伝道開始、すぐ大会伝道地となって教会を形成してきた釧路教会です。けれども旭川教会牧師坂本直寛による娘婿宅（坂本弥太郎、直意）訪問を機会とした最初の家庭集会を起点とするなら112年の歴史。炭鉱と漁業の発展で成長し、今はその衰退の影響下に釧路市も教会もあります。釧路教会は、転勤者が多数を占めていましたが、昨今は地元の人ほとんどが高齢者です。そのような中で、教会に一度でも足を踏み入れたことのある人たちにいろいろな案内をして、教会の礼拝につながる時を作るべく努力しています。

その一つとして、今年は、講師に三好明先生（志木北伝道所牧師）を迎えて、大会応援伝道礼拝を行いました。

伝道礼拝説教「十字架上のキリスト」（ルカによる福音書23章32～38節）、そして会食を挟んで午後の講演会「聖書の面白さ」をしていただきました。礼拝の出席者は30名。会食と午後の講演会は16名でした。恵み豊かな、奥深い内容の説教であり、講演会でありました。まことに感謝でした。

6月というのに礼拝堂にストーブの火を入れての伝道礼拝。寒い天候が続き、三好先生が釧路に来られる前日に「ともかく寒くないような服装で、しかも防寒用の服も持ってきてください」と電話しました。土曜日に迎えに行った釧路空港の温度は9.8度。そんな天候ゆえ、ご案内をすると見られる方も体調を崩して、一人も来ることはできませんでした。

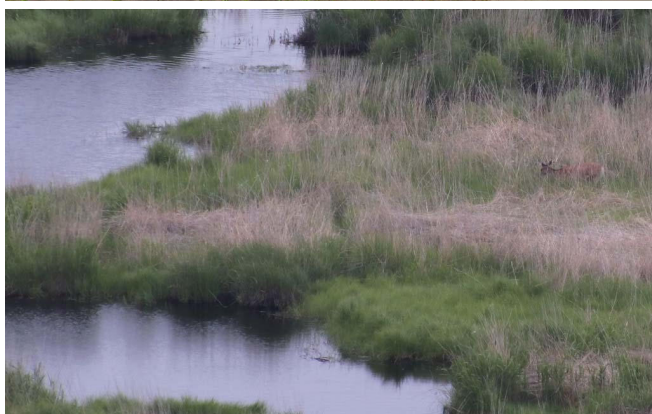
伝道礼拝の準備としてチラシ発送を2回、一度でも礼拝に来られたことのある方への、①教会報「一粒の種」発送（5月初め）と共に、②その中の30名ほどの方への「心の友」発送（5月下旬）と共に。そして最終的に今一度全員へのハガキ案内（55通）を行いました。教会近隣へのチラシ4,000枚配布は3日前に業者に依頼して行いました。チラシ効果は毎回0なのですが、今回はチラシによって2名が出席。一人は午後の会にも参加しました。もう一人は水曜日の聖書研究・祈り会に出席されたので、その方の様子を少し詳しくお聞きすることができました。住所も書かれたので、その後も連絡を取ることができるようになりました

た。大きな成果であったと思います。丁寧に接していきたいと思っています。

事後ケアとして伝道礼拝説教全文を礼拝案内者全員と教会員に、7月下旬配布、郵送。

なお、講師は神学校講師でもありますから、首都圏伝道との違いを実感していただきたいと思い、伝道集会后に毎月家庭集会を行っている酪農の長老宅（北に60km）を、釧路湿原を横切る（湿原の北の一部）唯一の道を通って、途中の展望台から運よくシカを遠望しながら訪問。帰る日には釧路湿原展望台に行って、目の前に広がる、山手線内側の3倍の釧路湿原（最大東西12km、南北23km）を一望してもらいました。

オホーツク圏を含めて道東地域は日本における地の果て（知床は、アイヌ語で「陸地の先端」）ですが、人口は少なくとも日本最大の乳製品生産地域です。道東の諸教会は「地の果てに至るまで、キリストの証人となる」働き、伝道の最先端であると自覚しながら伝道に励んでいることを覚えて、祈り支えていただきたいと願っています。



釧路湿原のエゾシカ

大会応援伝道の恵み

静岡池田伝道所委員 山下二郎

1963年7月、大会伝道地として静岡の地に伝道所が開設されて、半世紀も既に過ぎ去った7月8日の主の日に、大会応援伝道礼拝を開設記念礼拝とかねて、全国の教会の祈りの中で行われたことを感謝いたします。

今回は北海道から小樽シオン教会、北村一幸牧師をお迎えして、礼拝説教と講演をお願い致しました。

「遅すぎることはありません」 レビ記19章1～18節、マタイによる福音書19章1～16節

小樽シオン教会に57歳と63歳の方が、最近礼拝に来られたこと、友人が自分の両親がキリスト教徒だったと証した事、70歳の方が内地よりローズ幼稚園を訪れ、祖父や母親が幼稚園に在籍していた等を知らされたこと、歳を重ねてから色々なことをあらためて知ることが多いと云うお話から説教が始められました。

特に「先にいる多くの者が後になり、後にいる者が先になる」と「後にいる者が先になり、先にいる者が後になる」について、この二つがセットとして考えられていると云うこと。高齢になってから洗礼を受けたいと思う人、讃美歌の音が懐かしく聞こえる人、神の恵みを、このような人に与えて喜びなさいと云っているのです、と明快な説教でした。

礼拝後、茶菓を共に「福音を証する文学者・三浦綾子」と題しての講演があり、纏められたレジュメにより、三浦綾子のクリスチャンとしての生活を始め、北村先生も設立にかかわった記念文学館誕生のエピソード等について文学館から送付された資料とあわせ、出席者一同深い感銘を受けました。

当日は18名（求道者5名、初めての方1名）の出席者があり、特に初めてこられた男性は、数日前に当伝道所会員の奥様を亡くされ、自分も癌

が見つかり手術を前に奥様と同じ信仰を持ちたいとの気持ちで初めて礼拝に出席され、終了後しばらく北村先生と面談の時を持ちました。その後引き続き礼拝に来られ、手術も無事終わり現在静養中です。

次に静岡池田伝道所の現況について報告します。昨年中島英行牧師がご退職され、初めて無牧となりました。現在は齋藤修牧師（磐田西教会）と石飛律子牧師（袋井愛野めぐみ教会）によって礼拝が守られ感謝しています。

齋藤先生には中会議長と多忙な折、委員会議長としてご指導くださり併せて感謝です。ご多分にもれず礼拝出席者も高齢化（60歳から80歳）となり、その上体調不良等により、欠席がちの会員もあり、伝道所でありながら広く伝道を進めるのは非常に困難で、現状維持が目一杯です。

1996年の伝道目標は「礼拝出席者20名を目指そう」でしたが、今年2018年の目標は残念ですが、「礼拝出席者の10名確保」になりました。

1. 礼拝時間が午後3時30分になった。

2. 地域との交流、例えば家庭訪問、市内諸教会、教職者との交流、英和女学院への奉仕等、閉ざされた教会になってしまうことが一番心配です。

願わくば、牧師と共に本来の伝道所としての伝道に励むことができるよう、祈っています、ご加禱をお願いします。



(写真は今回の集会のものではありません。)

大会応援伝道をご利用頂くために —大会応援伝道実施に必要な具体的準備—

大会伝道局書記 齋藤 修

いつも大会伝道局の働きを覚えて祈り、様々な形でお支え下さいます事に心から感謝致しております。大会伝道局は沖縄・岡山二つの大会伝道地を支えると共に、大会応援伝道を全国の諸教会・伝道所にご利用頂くために用意をしております。これまで多くの群れに御利用いただき感謝致しておりますが、今後も更に活用して頂きたいと願っております。そこで今回は大会応援伝道を諸教会にいつそう御利用頂くために大会応援伝道実施についてあらためてお知らせ致します。

1. 大会応援伝道とは何か

大会応援伝とは、大会伝道局が日本キリスト教会に属する全ての教会（伝道所を含む）を対象にしている伝道の応援のための制度です。

2. その内容は

大会応援伝道規定（2007年度第3回伝道局理事会で決定。2008年度第3回理事会で改正）によってご説明いたします。

- 1) 予算は年間1,000,000円です。
- 2) 原則として年5箇所以内、一箇所上限20万円としています。講師の旅費および宿泊費を含みます。
- 3) 講師の選定、伝道計画等の準備は実施教会または大会伝道局（ご依頼があれば）が行います。
- 4) 実施教会からの申し込みを受け、大会伝道局理事会においての協議をいたします。承認いたしますと、伝道局会計から必要な費用を実施の1か月以上前に送付致します（応援伝道費振込口座先名称および口座番号をお知らせ下さい）。
- 5) 実施教会は実施後1か月以内に大会応援伝道の報告を大会伝道局書記に提出して下さい。
- 6) 申し込みの締め切りは原則として実施前年度の5月末までです。なお、実施年度に入ってから

らの申し込みについては大会伝道局書記までご連絡下さい。

3. その他

いわゆる独立教会の場合、講師への謝礼は実施教会の負担、宿泊代は応援援助金の範囲で、となります。伝道所の場合、講師への謝礼等（説教1回3万円、集会1回につき1万5千円、2回まで）、宿泊代も応援援助金の範囲内です。大会応援伝道を申し込まれる際は大会伝道局書記まで御一報下さい。折り返し申し込み書をお送り致します。

今年度後半の大会応援伝道

秋田教会 11月18日（日）

講師 吉平敏行（雲雀ヶ丘伝道所牧師）

岡山伝道所 11月18日（日）

講師 藤田浩喜（西宮中央教会牧師）

○訂正とお詫び

去る5月31日に発行いたしました「伝道局報105号」に誤りがございました。正しくは下記のとおりです。

3頁の「今年度前半の大会応援伝道」の欄
(誤) 講師 ディヴァン・スフルマン
(正) 講師 ディヴァン・スクルマン
訂正しお詫び申し上げます。